

NO FENCE IN NORTH KOREA

北朝鮮に強制送還された脱北者に加えられる拷問 実態調査報告書



この資料は、『北韓政治犯収容所解体運動本部』
(Democracy Network against North Korea Gulag)
<www.nkgulag.org> の報告書を翻訳したものです。
住所：ソウル市江南区開浦洞 13-3 番地大庁タワー 1132号

北朝鮮政治犯収容所の解体を目指して活動している『北韓政治犯収容所解体運動本部』は、北朝鮮を脱出し韓国国内に定着した 100 人を対象に、金正日独裁政権による拷問被害についての実態調査を実施した。

1. 拷問被害調査の方式

アンケート調査と個別インタビューが中心。

2. 拷問被害調査に参加した対象

2-1. 120 人 / 韓国内居住脱北者

このうち北朝鮮保衛部と人民保安署で直接拷問を経験した対象者:100 人

2-2. 対象者の男女比

男性:36 人 女性:64 人 (全 100 人)

2-3. 対象者の年齢

10代:3 人 20代:18 人 30代:27 人 40代:32 人 50代:10 人 60代:10 人

3. 拷問を受けるに至った理由

100人全員が北朝鮮から脱出し、中国に逃れたという理由で保衛部と人民保安署での拷問を経験した。

4. 拷問被害者が北朝鮮を脱出した理由

4-1. 生計のためにやむを得ず脱北したとの回答者は 52 人で最多。

4-2. 体制への嫌悪ゆえとの回答者は 30 人。

4-3. 家族の中に先に脱北したり韓国に亡命した者がいて脱北に至ったとの回答者は 16 人。

4-4. その他の理由は 2 人。

5. 保衛部、人民保安署での拷問の形態

5-1. 拷問の形態

棒電法	長さ 50cm ほどの円い棒や角材で全身を叩く。
関節折り	長さ 50cm ほどの角材を両脚の膝の裏に挟み込み長時間正座させる。
鳩拷問	両腕、両脚を後に縛り、天井に設置した輪にぶら下げて加える拷問。
ポンプ	両手を後にして屈伸運動(スクワット)を連続数百回反復させる。
水おぼけ	頭を水桶に沈めては引き揚げるを繰り返す、口、鼻に水を注ぎ続ける。これには汚染され腐敗した水が用いられる。
電気拷問	電気こん棒を当てたり、椅子に縛り付けた人に電線を連結し通電する。
土足での拷問	土足で全身を蹴り、あるいは踏みにじる。

頭スタンプ	髪を掴んで頭を壁に叩き付ける。
銃床を打ち下ろす	自動歩兵銃の銃床で頭など特定部位を狙って打撃を加える。
角材で手の平を叩く	長さ 40cm 以上の角材で手の平を打撃する。
拳での殴打	げんこつで顔や腹部などを打撃する。
性器への拷問	男性の睾丸を足で打撃する、男性の肛門に串を入れてほじくる、女性の陰部を靴で蹴る、女性の陰部に指を差し入れる、女性の肛門に串を入れてほじくる、女性の肛門に指を入れてほじくる、妊娠婦の腹を打撃して墮胎させる。
児童への拷問 *	10 才未満の児童にも暴力を振るう。

特に今回の調査事業で明らかになったのは、北朝鮮の拘禁施設で女性が性暴力にさらされており、変態的性拷問が蔓延している事実である。多くの人々が見ている前で裸にし、互いに陰部に指を入れさせて中を探らせている。また2才の乳児にさえ虐待を加えていた。北朝鮮保衛部や人民保安署でのこうした拷問を伴う取調べが終った対象者はさらに各地の労働教化所や労働鍛練隊に送られ、3ヶ月から3年ほど、毎日平均10時間以上の強制労働に服する。

6. 拷問の後遺症

6-1. 精神的後遺症

北朝鮮保衛部や人民保安署での拷問を経験した対象者の大多数は不眠症、憂鬱症、対人忌避、神経衰弱、記憶喪失症を抱えている。特に不眠症や睡眠時に悪夢を見るなど精神的不安を訴えている。

6-2. 肉体的な後遺症

大多数が頭痛を訴えている。心臓疾患、気管支炎、関節炎、消化障害、脊椎損傷、腰をうまく使えないなど肉体的な後遺症を抱えている。性的拷問経験者の場合、性生活が不能になるほど後遺症が深刻な場合がある。

【証言】

証言 1.

名前: [redacted] 性別: 女 出生年月日: 19 年 月 日 61 歳

北朝鮮での居住地: 咸境北道清津市浦項区域

北朝鮮での職業: 労働者

脱北理由: 北朝鮮社会での階級的差別を嫌悪して。

脱北日: 1次 2002年11月1日 2次 2003年4月30日

韓国入り: 2003年5月18日

北への送還: 2002年11月1日、豆満江を越えて中国に逃れ、しばらく中国で暮らしたが、中国公安によって逮捕される。延辺朝鮮族自治州図們市の看守所に50日間収監された後、北朝鮮に強制送還された。強制送還後、保衛部で10日間取調べの間、拷問を経験した。保衛部での取調べの後、清津市農浦集結所で厳しい強制労働に服した。

拷問の形態: 図們市看守所収監当時、北朝鮮の歌を歌ったという理由で電気こん棒で殴られるなど激しい拷問にさらされたという。当時中国公安員の拷問により流血し全身に青アザができたという。また中国公安員は脱北者という理由でトイレに閉じ込めて殴打したという。北朝鮮に強制送還された後、咸境北道穩城郡保衛部で保衛員たちは「中国から持ってきた金を捜し出す」として陰部と肛門に指を入れて「検査」したという。また調査の過程で頭を蹴られて気絶、

棒による殴打等の拷問を受けた。拷問の後遺症:現在も頭部に激しい痛みを覚える、精神的にも当時の状況が甦り苦痛を拭えないという。

証言 2.

名前:金ミラン 性別:女 生年月日:1965年7月27日 42歳

北朝鮮での居住地: 黄海南道海州市リョンダム区域

北朝鮮での職業: 労働者

脱北理由: 生計のためにやむを得ず。

脱北日: 1次1997年8月11日 2次2005年11月22日

韓国入り: 2007年6月15日

北への送還過程: 金ミラン氏は1997年8月11日、豆満江を越えて中国に逃れた。その後中国で暮らしていたが中国公安に逮捕され、遼寧省瀋陽市看守所に78日間収監の後、北朝鮮に強制送還された。平安北道新義州市保衛部と新義州市人民保安署で30日間の取り調べで拷問を経験した。その後、第11号教化所(ジュンサン教化所)で2年間収監され一日平均12時間以上の強制労働に服した。公開銃殺の現場も目撃した。

拷問の形態: 瀋陽市看守所収監当時、脱北者という理由で中国人収監者から多数殴打された。これに抗議すると看守所内の公安員は脱北者だけを一方的に殴打したという。強制送還後、新義州市保衛部と新義州市人民保安署では、「隠した金を探る」との理由で性器に指を入れての「検査」など性的暴力も受けた。また激しい言葉の暴力と水拷問、棒拷問、ポンプ拷問などを経験したという。

拷問の後遺症: 拷問によって脊椎を損傷し、韓国入国後に手術を受けたが、その後遺症による痛みを訴えている。いまだ悪夢を見るなど精神的な不安感から抜け出せないでいる。

証言 3.

名前:方チャングム 性別:女 生年月日:1957年4月12日 51才

北朝鮮での居住地: 咸境北道穩城郡

北朝鮮での職業: 労働者

脱北理由: 生計

脱北日: 1次2000年2月15日 2次2003年7月20日

韓国入り: 2004年7月27日

北への送還過程: 方チャングム氏は1999年3月5日豆満江を越えて中国に逃れた。中国で住んでいたが中国公安当局に逮捕され、延吉市看守所に30日間収監された後、北朝鮮に強制送還された。方チャングム氏は両江道三池淵郡保衛部と三池淵郡人民保安署に移送され、15日間の取調べの間拷問を受けた。両江道三池淵郡保衛部と三池淵郡人民保安署で調査を終えた後、両江道恵山市の道集結所で4ヶ月間、毎日平均12~13時間以上強制労働に従事し、疾患で釈放された。

拷問の形態: 三池淵郡保衛部での取調べの際、調査官が「国を裏切った背信者だ」と激しい言葉の暴力とともに足、拳、革ベルト、角材などで殴打されたと証言した。強制送還された際、「中国から持ち込んだ金を出せ」と、肛門と陰部に指を入れて「検査」され、裸でポンプ(スクワット)を500回以上強いられた。また中国で教会に行ったことを理由に、一週間椅子に縛られたまま棒で叩かれ、水責めを加えられたと証言した。

拷問の後遺症: 今も脊椎損傷と関節炎、肛門裂傷で苦しんでいる。肛門裂傷に関しては韓国入りの後手術も受けた。今も不眠症、憂鬱症、北朝鮮での経験に起因する悪夢に苦しむという。

拷問被害者証言 4.

名前:李ボクナム 性別:男 生年月日:1958年5月25日 49歳

北朝鮮での居住地: 咸境北道会寧市

北朝鮮での職業: 炭鉱労働者

脱北理由: 北朝鮮体制への嫌気、父親が韓国軍捕虜という理由で受けた差別故。

脱北日: 1次 1994年9月8日 2次 1998年3月1日 3次 2003年3月2日 4次 2004年3月初旬。

韓国入り: 2004年4月16日

北への送還過程: 国軍捕虜出身である父親(李ギドン1994年死亡)とともに1994年9月に脱北を試みる。当時豆満江の国境地域で北朝鮮側国境警備隊員に捕まり格闘。父親は逮捕された。本人は中国に渡ったが、公安に逮捕され、北朝鮮に強制送還。その後咸境北道穩城郡保衛部に移送され、50日間取調べを受ける間に苛酷な拷問を受けた。以後1998年3月、再び中国に脱北したが延吉市で公安に逮捕され、北朝鮮に強制送還。咸境北道会寧市保衛部と咸境北道道保衛部で6ヶ月にわたる調査の間、拷問を受ける。2003年3月、3度目の脱北も、延吉市で中国公安に逮捕され強制送還。咸境北道穩城郡保衛部で調査の間、拷問を受ける。

拷問の形態: 咸境北道穩城郡保衛部で父親との対面調査の際、互いの話が合わないとの理由で角材を膝裏に挟んで正座させる「関節折り」を加えられた。土足で顔面を蹴られ、前歯が全て折れた。穩城郡労働鍛練隊から逃走し、脱北しようとして豆満江で北朝鮮側国境警備隊員に逮捕され暴行を受け、頭と右側胸の右側に傷を負う(大きな傷痕が今も残る)。

拷問の後遺症: 頭痛と憂鬱症および幻覚に苦しむ。韓国で精神障害2級認定。また腰痛と脚の痛みがひどく動作に困難を来している。

証言 5.

名前:安ミンヒョク 性別:男 生年月日:2000年9月14日 (7才) 中国延吉市で脱北者の母と韓国国籍の父の間に生まれる。

北朝鮮での居住地: 咸境北道会寧市ソンチョン洞

北に送還された日: 2004年8月20日

韓国入り: 2007年7月3日

安ミンヒョク(現在7才)は、北朝鮮を脱出して中国延吉市で暮らしていた北朝鮮女性と当時中国で個人事業をしていた韓国国籍の男性との間に2000年9月14日出生。2002年7月初め、中国公安によって母と共に逮捕され、中国龍井看守所と辺防拘留所に収監、同年8月20日北朝鮮に強制送還された。その後、保衛部で拘留。当時、安ミンヒョクは2才の乳児だったが、保衛部拘留場で「性別は男」との理由で母から引き離され収監されていた。保衛員たちは彼が母を求めて泣くのを理由に食事を与えず殴打した。